



最近、入院中の患者様が後に結核であったと判明する事例を複数例経験しました。結核は空気感染であるため感染範囲が広範に及び、かつ免疫抑制状態の患者に感染しやすいため、院内感染対策として嚴重な注意が必要な疾患です。今回は結核の院内感染対策についてお話いたします。

## 結核とは

結核は抗酸菌のひとつの結核菌による感染症であり、空気感染により伝播します。空気感染とは、飛沫核を肺の内部にまで吸引することで感染を引き起こします。結核は接触や飛沫では感染しないとされています。

## 結核の感染対策

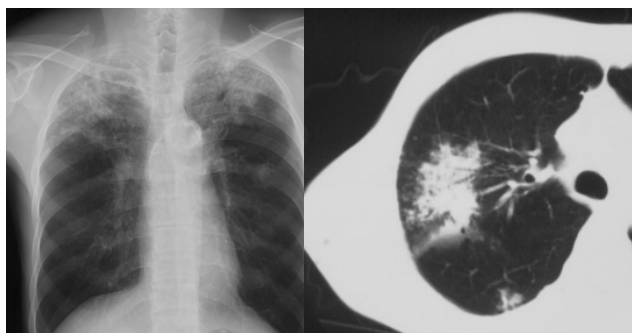
結核は、空気感染するため、サージカルマスクでは感染予防はできません。病室内に入るときにはN95マスクの装着と、陰圧個室での診療が必要となります。結核の診療は感染対策を行なっていれば、対応可能な疾患ではありますが、結核であることがわからない場合には、周囲の広い範囲にわたって感染の危険が及びます。

## 結核症例を見逃さない

結核症のうち腸結核などの肺外結核は通常感染伝播しにくいのですが、肺結核は感染伝播の可能性があり、入院時には肺結核の有無について十分な注意が必要です。肺結核を疑うためには胸部レントゲン写真が重要です。肺結核は上肺野に多く、周囲に結節状の衛星病変を伴うことが多いのが特徴です。放射線科の読影所見に結核が鑑別が上がっている場合にはさらに詳しい検査が必要です。

また症状としての長引く咳嗽、喀痰も結核を疑う根拠になります。例えば気管支結核では激しい咳のみでレントゲンに明らかな陰影の認められないこともあるので注意が必要です。

レントゲン所見と症状から結核が否定できないときは、感染制御部もしくは呼吸器内科にコンサルテーションするように心がけてください。



## 院内で結核が判明したら

結核は空気感染のため、一般の病室での診療は周囲の病室の患者様への感染の危険があります。基本的には、喀痰の塗抹が陽性であれば感染の危険があるので結核専門の病院へ転院となります。喀痰の塗抹が陰性で培養のみが陽性の場合には、個室での診療も可能です。その場合には、医療従事者は、念のため病室内に入るときはN95マスクの装着が必要です。



病棟、外来棟のエレベータの利用時に手袋をしたまま操作ボタンに触れる職員の方を見かけます。汚染した手袋は院内感染を広げる危険性がありますし、周囲の患者様にも不安を与えてしまいます。エレベータの中での手袋の着用は嚴重にお止め下さい。